

大空 (生徒・保護者向け) 26号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和2年12月4日(金)

巧は拙に若(し)かず

□本日の概要

- I 君という宮崎西校の卒業生は志望大学合格可能性は低かったが地道に努力を重ね、見事合格を果たし、さらに就職では難関の公務員試験を突破した。彼が大学の後輩に残した言葉が「巧は拙に如かず」である。
- I 君の生き方は、不器用な者でも努力次第で器用な者を上回ることができることを示している。今、改めて自分の夢や目標を見据え、努力して欲しい。才能に関係なく努力は平等である。
- 高校3年生はいよいよラストスパート。短距離走では、隣を気にせず、ゴールの先を見据える。そうするとゴールを最高速度で駆け抜けることができる。
- 中学生や高校1・2年生はまだ始まったばかり。「未知の我」を探しに様々な模索をして欲しい。

□I君のこと

平成4年度～平成11年度の8年間、もう30年ほど昔になりますが、私はこの宮崎西高校に教員として勤めていました。勤務した8年間の中、5年間は高校3年の担任でしたが、その中で普通科文系を担任した時に出会ったI君の話をします。

I君は、宮崎西高校から熊本大学法学部に進学、大学4年のときに国家公務員I種試験に合格して、当時はまだ大蔵省という名称だった現在の財務省に採用されました。国家公務員I種試験は、公務員試験の中で最も難しいと言われていました。

(合格者は「キャリア」と呼ばれます。)当時の宮崎西高校も毎年10名前後の東大合格者がいましたが、その中でも国家公務員I種に合格するのは稀でした。彼が国家公務員試験に合格した年度は、九州の大学からの合格者は彼だけでした。

熊本大学は彼の合格を大変喜び、当時の大学パンフレットに掲載し、後輩のための就職セミナーの講師を依頼したようで、その時の資料を私に送ってくれました。彼が大学の後輩のために書いた文章の一部を転載します。

□I君の合格体験記(大学卒業時)

「功は拙に若かず」熊本大学法学部 法律学科 I
自分を知る人間は、題名を見て「おっさん、また何か言いよるで」と思うかもしれない(ちなみに自分は今年で22歳である)。この言葉は何か中国の古典にでもでてきそうだが、自分は前ヤクルト監督野村克也氏の著書「弱者が勝者になるために」で知った。

「功は拙(せつ)に若かず」。「功」というのは「天性に恵まれた者」とか「器用な者」をいう。器用な者が勝つのはあたりまえだが、不器用な者でも真面目な努力家に通ずる「拙(愚直)」の面があれば、いずれは「功」を上回りうるというのが、この言葉の意味である。

自分の国家I種職員への道は、まさにこの言葉の実現だった。県立高校の芸術クラスを経て熊大に滑り込みで入った凡才が国家I種に挑戦するなど、普通に考えれば無謀である。しかし今回、自分が国家I種試験に合格し、大蔵省に採用されるという幸運(あるいは不運か…)を勝ち得たことは「不器用な者でも努力次第で器用な者を上回れる」ということにはならないか。

「蟻とキリギリス」「うさぎと亀」…凡才の愚直な努力が実を結ぶという童話は、皆さん幼いときから聞かされていたと思う。しかし人間は成長するにつれ「あれは所詮童話の話だ」と思うようになる。以下はそうした童話をいまだに信じているガキンチョの就職体験記だが、これを読んで、あらためて「自分の可能性」というものを見つめ直す人が現れた

とすれば、自分は幸運である…。

2.おっさんのお説教(後輩のみなさんに言いたいこと)

(1)勉強のやり方を問い直すべし

9月や2月頃になると、友人のノートをコピーする人や、慌てて図書館に通う人が急増する。その一方で、それから一ヶ月もすればそれらの場所はとても静かになる。この原因の一つは、大学の試験が簡単すぎ、1~2週間の勉強で単位が取れてしまうことにある。高校時代に比べれば、まさに天国である。しかしそのツケは、まさに就職活動のときに回ってくるのではないだろうか。

(2)勉強以外にもやることを見つけるべし

自分が面接で驚いたのは、卒論の内容やゼミの内容を除き、法律について全く質問を受けなかったことである。自分は民間への就職活動は全く行わなかったため、そちらはどうか分からないが、公務員については試験である程度学力が判断できるので、面接ではもっぱら勉強以外のことについて質問を受けることになる。いわゆる「受験マシーン」はこの段階で落とされることになる。

自分がやっていたのは、これまた汗くさい「陸上長距離」である。しかし他の部員との会話、コンパ、そして毎日の練習といったことは、面接において自分をアピールする絶好の材料となった。もちろん、面接に役立ただけでなく、自分の成長のために貴重な経験になった…。

(3)自分の可能性を信じるべし

「俺、頭悪いから」「あだしバカだから」の一言で自分の人生を完結している人はいないだろうか。テストのできる人を「頭がいい」と呼ぶ社会風潮の下で、自分を「頭が悪い」と思いこんでいる人は、自分で「考える」ということを放棄してはいないか。

「一生懸命」というのは今では格好悪いことなのかもしれない。ましてや一生懸命頑張っても失敗したら余計格好悪いかもしれない。しかし格好をつけるために自分の可能性を諦めるとしたら、もったいないのではないだろうか…。

□高校3年次のI君

高校時代のI君は法学部志望でしたが、英語が

極端に苦手な生徒でした。よほど英語が嫌いだったのか「先生、日本人が英語を学ぶ必要はありません！」などと面談で発言し、少しも勉強しようとしませんでした。もちろん、彼は勉強そのものをしなかったのではありません。好き嫌いが激しかったのです。彼は好きなことにはとことん頑張るタイプでした。いわば、熱中型とでも言ったら良いでしょうか。学校では生徒会役員で、これまた熱心に活動していました。勉強にも、その良さや欠点が見えたのでしょうか、好きな数学や地歴は成績が良かったのですが、嫌いな英語は苦手科目になり、先ほどのような屁理屈で逃避していたといえるでしょう。しかし、英語は文系理系にかかわらず進学に大きな影響を与える科目です。まして、法学部といえば、英語・国語のいわゆる二次力が必要になります。

3年生になって初めて面談をした時、私はI君の成績そして彼の考え方を知りました。私は内心、「この状態では法学部進学は難しい、まして熊本大学のレベルは不可能だ。」と思いました。しかし、まだ4月です。努力するしかありません。希望を捨てるべきではないと考え、彼にはこうアドバイスしました。

「目標は高く持て。そして、夢の分だけ努力せよ。熊本大学法学部という志望は最後まで変えるな。絶対に夢を諦めるな。」

「いくら英語が不得意だからといって、中学英語のレベルが分からないはずはない。今、中学英語から復習すれば、必ず自分のつまずいたところが分かるはずだ。『英語の学習は必要でない』などという屁理屈、こだわりを捨てて、素直な気持ちで基礎からやり直してみたらどうだろう。時間は少ないが、やっごらん。」

すると、彼は、実行したのです。「基本からやり直す」、言うのは簡単ですが、実行は大変なことでした。私も多くの生徒にアドバイスしてきましたが、実行できる生徒は滅多にいませんでした。

その頃、私が終礼に行くと、雑談をしている生徒から離れて、彼はいつも熱心に英語のワークブックをやっていたのを覚えています。一番前に座っていた彼に、「I君、調子はどう？」と聞くと、彼は、「先生、順調です。」とにこやかに答え、ワークを見せてくれました。なんとそれは中学3年

の英語のワークでした。

私は、正直、動揺しましたが、心の中のショックを抑え、顔だけは笑顔を繕って、「がんばれよ。」と言いました。もう、高校3年生の7月だったのです。進研模試を翌週に受けなければならない時です。高校3年の7月で中学3年の復習、もう絶対間に合わない…。

しかし、彼はやり続けたのです。7月で中学の復習を終え、夏休みいっぱい高校の基礎のやり直しを終了させました。信じられないかもしれませんが、低迷していた英語の成績が、秋から急上昇したのです。元々数学は圧倒的に強く、日本史に至っては、日本史の先生が史学科に進学して研究者にならないかと説得するほどの力があつた生徒でした。能力はあつたのだと思います。勉強しなかつた彼が頑張り始め、クラス全体が頑張り始めめたことを覚えています。

□センター試験を迎えたI君

センター試験を迎え、彼は自己最高得点でした。それでも、センター試験での熊本大学法学部の判定はCの下、Dに近かつたと思います。英語の成績が奇跡的に伸びたと言っても、もともとスタートが中学校からのやり直しでしたので、センターでも高得点できた訳ではありません。それでも1学期の成績から比べると大健闘の成果だったので。しかし、個別学力試験はセンターより難しく比重も高くなります。

どの普通科高校でも、センター試験後に進路検討会という会議があります。担任として私は悩みました。私の経験からも、データの上からも、二次試験の学力まで総合して考えた場合、I君の熊本大学の合格可能性は4割程度、判定は「D」です。データ上では他の大学の法学部に変更すれば合格可能性はぐんと高まります。彼は私立大学等も受験しない覚悟です。失敗すれば浪人するしかありません。チャレンジをさせたいという思いと、せつかくの努力を無駄にさせたくないという思いもありました。私は悩みました。そんな迷っている私を励ますように、当時の教頭先生がこう言いました。この言葉も、私は今でも鮮明に覚えています。

「川越先生、彼に熊本大学を受験させよう、不合

格でもいいじゃないか、ここまで伸びた生徒はいない。こんな生徒を私たちの誇りに思おう。」

三者面談で、私は熊本大学には合格可能性が低いことを率直に告げました。そして、彼の意志を聞きました。彼は、熊本大学挑戦の意志を変えませんでした。私は進路検討会での教頭先生の励ましの言葉を告げ、相談の末、熊本大学一本で勝負することに決めました。前期・後期日程とも熊本大学に出願し、私立は受けない。落ちたら浪人する。覚悟を決め、特編授業に入り、彼は徹底して学習に取り組みました。デスマッチのような学習の取り組みでした。

□二次試験後のI君

熊本大学受験後、帰ってきた彼に、二次試験の手応えはどうだったかと聞くと、彼は落ち着いてこう答えました。「先生、熊本大学に通りました。」驚く私に彼は、「大丈夫です、全部できました。」と答えたのです。受験結果を不安がる生徒は大勢いますが、彼のように自信たっぷりの生徒は滅多にいません。成績が伸びたと言っても、もともと英語が全然できなかつた生徒なのです。彼の努力は認めますが、一般的に、英語は数ヶ月で伸びるような科目ではありません。本当に大丈夫なのか…。

そして、数日後。発表の日を迎えました。結果は、合格。ここまでの話でも十分なサクセスストーリーなのですが、大切なことは、彼は、高校で身につけた姿勢を大学でも継続したことなのです。

□大学入学後のI君

熊本大学入学後の夏休み、I君が西校に遊びにきたことがあります。そのとき、I君は「大学生が勉強をしない」と腹を立てていました。I君は、大学の講義はすべて最前列で受講、公務員対策は自主的に取り組み、分からないところは教授を質問責めにするという学習を続けていました。塾にも予備校にも頼りませんでした。(もちろん、高校時代も学校の先生だけを頼りにしました。)講義をさぼり続け、安易にノートを借りにくる大学時代の友達には、「自分で勉強をしろ」とコピーを断つたというぐらいの厳しさを持っていました。

こう書くと、I君は、真面目だけどなんだか付き合にくい、頭の堅い人のような感じがしませんか。そんなことはないのです。確かに、自分には厳しいところがありましたが、人と付き合わず、自分の世界にこもっていたのではありません。彼は高校時代も部活動に生徒会、大学時代でも部活動に入り、陸上の長距離選手として頑張っています。クラブの合宿や飲み会は楽しく、いい友人がたくさんできたといいます。まさに、文武両道を達成したのです。部活動をやっているからこそ鍛え得られた内面や体力、人間関係を持っているんですね。

「大学でも高校時代のままだったんです。」にこやかに語る彼は頼もしく、自信に満ちていました。大蔵省（財務省）内定後、再び学校に顔を見せてくれました。そのとき、私は彼に、「今、私が担任している生徒達に何かアドバイスしてくれ」と突然依頼しました。普通だったら戸惑ったり、いやがるものです。しかし、彼は二つ返事で顔色一つ変えず、「いいですよ」と即答してくれた。逆に、私が「本当にいいのか。」と問い返したところ、「自分は就職の面接練習で、いつ、どんなことを聞かれても動じないように、日頃からトレーニングを積んできた。大丈夫です。」と言いました。努力を積んできたことによる自信、そんなものが感じられました。

□高校卒業後にも伸び続けたI君

さて、私は、皆さんに官僚を目指せとか、どんなことがあっても第一志望に固執しろとか言いたいのではありません。私自身が担任をした生徒の事例として、データ上の可能性は少なかったのに目標に向かって努力し合格を達成し、さらに大学の合格だけを目標とするのではなく、大学合格後も目標を持って伸び続けた事例として紹介したいと思ったのです。

I君は高い目標を持っていました。成績は目標に及ばず、得意科目も抱えていましたが、まず、自分のやりたいことがあり、志望大学が明確でした。やりたいことがはっきりしていたので、人よりペースが遅くても、動じなかったのでしょう。そして、コツコツ地道な努力を続けました。彼の言葉にあるように、決して器用な生徒ではありません。

せん。しかし、「巧は拙に若かず」の言葉のように、不器用な者でも努力次第で器用な者を上回る結果を出したのです。

□あきらめなければ夢は叶う

I君の後輩である皆さんも同じ可能性を秘めています。特に、高校3年生となると、共通テストまで後1ヶ月という、最も苦しい時にさしかかっています。模試を受けても思うように得点が伸びない人もいるでしょう。しかし、そんな時だからこそ、今、改めて、自分の夢や目標は何か、それを考えて欲しいのです。

I君は合格という結果が出ましたが、努力の成果は人によって違います。しかし、それで良いのです。人が神から与えられた環境や能力には違いがあります。努力は大切ですが、だからといって、すべての人が、努力してオリンピックに出場できるようになる訳ではありません。しかし、自分の目標に向けて、自分のペースで努力することは可能です。努力すること自体は平等なのです。

□トップスピードでゴールを駆け抜ける

小学生の時、徒競走で、隣のレーンの人が気になり、よそ見をして逆転された経験はありませんか。隣を気にすると絶対にタイムは落ちます。だから、短距離走では脇目もふれず、ゴールテープの先を見据えて全力で走るのです。そうすると、ゴールテープ地点を最高速度で駆け抜けることができます。高校3年生にとっては、今から3月までは短距離走です。人を気にせず、最高のスピードでゴールを駆け抜けてください。

逆に、中学生や高校1・2年生にとっては、実はまだ始まったばかり。人生100年の時代では、3年間という月日は3%です。極めて短い期間で見えている自分の可能性は、ごくわずか。創設の言葉通り、「未知の我」なのです。焦らず、未知の我を探し続けてください。

人は、気持ちの持ちよう、夢の持ちようで、いくらでも伸びます。この年末、遠くに遊びに行くのは難しい状況が続いていますが、「未知の我」を探しに、いろいろ模索してみませんか。